

平成20年度決算について

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

1. 個別決算の概要

高速道路事業と関連事業を合わせた全事業において、営業収益799億円に対し、営業費用が784億円となり、営業利益は15億円となりました。これに営業外収益と営業外費用を加減した経常利益は17億円となり、特別利益1億円を加え法人税などを差し引いた当期純利益は10億円となりました。

(1) 損益計算書

(単位：億円)

区 分	平成20年度	平成19年度	増 減	前 年 度 比 (%)	(参考)※2 平成20年度 事業計画
営業収益	799	845	△ 45	△ 5.3	824
高速道路事業	779	820	△ 41	△ 5.0	794
料金収入	※1 (736)	※1 (776)	(△ 40)	(△ 5.1)	
道路資産完成高	41	42	△ 1	△ 3.8	62
その他の売上高	※1 9	※1 6	2	30.9	—
関連事業	20	24	△ 4	△ 16.8	30
営業費用	784	827	△ 43	△ 5.2	822
高速道路事業	765	804	△ 39	△ 4.8	792
道路資産賃借料	537	574	△ 37	△ 6.4	524
道路資産完成原価	41	42	△ 1	△ 3.8	62
管理費用	186	187	△ 0	△ 0.1	207
関連事業	18	23	△ 4	△ 17.6	30
営業利益	15	17	△ 2	△ 14.0	2
高速道路事業	13	16	△ 2	△ 14.9	1
関連事業	1	1	△ 0	△ 3.5	0.6
経常利益	17	18	△ 1	△ 8.4	0.6
特別利益	1	—	1	皆増	—
特別損失	—	1	△ 1	皆減	—
当期純利益	10	8	1	14.9	※3 0.4

※1 その他の売上高は、料金割引社会実験に伴う国からの負担金収入7億円（前年度5億円）を含んでいません。料金収入の上段（ ）は当該負担金収入を含めた額です。

※2 事業計画は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構との協定を反映した計数となっています。

※3 事業計画の当期純利益は関連事業に係るもので、高速道路事業においては当期純利益を見込んでいません。

【高速道路事業】

- 当期の本四道路の通行台数は31百万台と前期比で0.6%増、料金収入※は736億円と前期比で5.1%減となりました。なお、料金割引社会実験に加え、利便増進計画による料金割引を実施しました。
- 企画割引について、瀬戸中央自動車道開通20周年及び神戸淡路鳴門自動車道全線開通10周年を記念した「架橋記念半額割引」、「四国周遊往復割引」等の周年記念企画割引並びに前期に引き続き「与島PA Uターン割引」、「しまなみフリー悠遊クーポン」等を実施しました。
- ETC利用率は平成21年3月で80.4%となり、平成20年3月と比較し10.7ポイントの増加となりました。
- 主な工事として、舗装補修工事、耐震補強工事及び長大橋塗替塗装を実施しました。
- 独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下、「機構」という。)に対する道路資産賃借料は537億円となりました。
- 以上の結果、高速道路事業では、料金収入及び機構へ引き渡した資産の売上である道路資産完成高などの営業収益779億円に対し、道路資産賃借料、道路資産完成原価、道路の管理費用の営業費用が765億円となり、営業利益は13億円となりました。

※料金割引社会実験に伴う国からの負担金収入7億円を含んでいます。

【関連事業】

- 休憩所等事業(高速道路のサービスエリア・パーキングエリアの管理)については、お客様に、より快適に、より楽しくご利用いただくために、前期に引き続き計画的に施設のリニューアルを実施しました。
- 受託事業については、これまで培ってきた長大橋の建設、管理技術を活用して、地方公共団体から長大橋の施工検討などを受託しました。また、国から一般国道317号生口島道路、大島道路の道路清掃作業、交通管理業務、地方公共団体等から関連する道路の維持修繕及び機構から本四淡路線・本四備讃線(鉄道)の管理を受託しました。
- 以上の結果、関連事業では、営業収益20億円に対し、営業費用が18億円となり、営業利益は1億円となりました。

(2) 貸借対照表

(単位：億円)

区 分	平成20年度	平成19年度	増 減
資 産	411	410	1
流動資産	184	190	△ 5
固定資産	226	219	6
負 債	290	299	△ 8
流動負債	98	118	△ 19
固定負債	192	181	11
純資産	120	110	10
資本金	40	40	-
資本剰余金	40	40	-
利益剰余金	40	30	10
(負債・純資産合計)	411	410	1

【資産の状況】

資産の総額は411億円であり、このうち流動資産は184億円、固定資産は226億円となっています。固定資産は、料金收受機械設備等の高速道路事業固定資産、サービスエリア・パーキングエリアの土地及び建物等の関連事業固定資産が主なものとなっています。

【負債及び純資産の状況】

負債の総額は290億円であり、このうち流動負債は98億円、固定負債は192億円となっています。

純資産の総額は120億円であり、資本金、資本剰余金及び利益剰余金の合計となっています。

2. 連結決算の概要

(1) 連結対象

次の子会社3社を連結対象としています。

会 社 名	主 要 な 事 業 内 容
JBハイウェイサービス株式会社	休憩所等事業、料金收受管理、交通管理
株式会社ブリッジ・エンジニアリング	点検管理、長大橋維持修繕
株式会社TNS	料金收受機械保守整備

(2) 連結損益計算書

(単位：億円)

区 分	平成20年度	平成19年度	増 減	前 年 度 比 (%)
営業収益	815	859	△ 44	△ 5.1
高速道路事業	779	819	△ 40	△ 4.8
その他事業	35	40	△ 4	△ 10.9
営業費用	796	838	△ 42	△ 5.0
高速道路事業	767	804	△ 37	△ 4.6
その他事業	29	34	△ 4	△ 13.9
営業利益	19	21	△ 2	△ 10.3
高速道路事業	12	14	△ 2	△ 16.7
その他事業	6	6	0	4.9
経常利益	22	23	△ 1	△ 5.8
特別利益	1	0	0	107.2
特別損失	0	1	△ 1	△ 84.9
当期純利益	14	11	2	16.9

営業収益815億円に対し、営業費用が796億円となり、営業利益は19億円となりました。これに営業外収益と営業外費用を加減した経常利益は22億円となり、特別利益と特別損失を加減し、法人税などを差し引いた当期純利益は14億円となりました。

(3) 連結貸借対照表

(単位：億円)

区 分	平成20年度	平成19年度	増 減
資 産	461	456	4
流動資産	200	203	△ 2
固定資産	261	253	7
負 債	331	340	△ 9
流動負債	109	128	△ 19
固定負債	221	212	9
純資産	129	115	14
株主資本	129	115	14
(負債・純資産合計)	461	456	4

資産の総額は461億円であり、このうち流動資産は200億円、固定資産は261億円となっています。

負債の総額は331億円であり、このうち流動負債は109億円、固定負債は221億円となっています。

純資産の総額は129億円となっています。

3. 今後の事業方針

【高速道路事業】

- 代替路線のない本四道路の安全性を高めるため、耐震補強工事を継続して実施してまいります。
- 海峡部長大橋の予防保全のため、適時適切な点検と補修を行ってまいります。
- 安全で快適な交通の確保のため交通管理に万全を尽くします。
- ETC設備等の充実、ETCを活用した企画割引、積極的な広報活動などにより、多くの方々に本四道路を利用していただけるよう努力してまいります。

【関連事業】

- 瀬戸内の自然・景観を満喫できる快適な空間の形成や、地元の産物を活かした食事・土産など、お客様に喜ばれるサービスの提供に努めます。
- 長大橋の建設、管理技術を活用した国内外の橋梁への維持管理等の技術支援を拡大してまいります。
- 平成21年度の事業計画において関連事業の当期純利益は、0.4億円を見込んでいます。